

# 玄洋社関係史料の紹介

## 石瀧 豊美 第6回

### 福岡表警聞懐旧談 (一)

清漣野生編述

来年は、西南戦争一〇〇年の記念すべき年に当たっている。西南戦争の一面として聞かれた「福岡の変」は、玄洋社の誕生に大きな影響を与えた出来事であった。しかし、「福岡の変」についてはよるべき史料も乏しく、その経緯をたやすく知ることはできる書物は皆無に等しい。『玄洋社社史』の他には、わずかに、黒龍会編さんの『西南記伝』と、徳富蘇峰の『近世日本国民史』が、部分的に頁を割いているくらいである。

一般の歴史書や歴史年表では、明治七年の佐賀の乱、九年の秋月の乱、萩の乱、神風連の乱、そして十年の西南戦争にはふれていて、「福岡の変」に言及したものは見当たらない。独立した意義を与えられることなく、西南戦争の蔭に埋没していると言つてよいであろう。

そうした中で、旧福岡藩士江島茂逸(筆名・清漣野生)の手になる「明治丁丑福岡表警聞懐旧談」は、「福岡の変」を対象とした歴史叙述としてほとんど唯一の

記しなかった。(例 志(壮士))。

明治丁丑 福岡表警聞懐旧談 上

#### 第一回 発端

回顧すれば、惟時明治六年癸酉の冬、征韓論破れ、西海武魁之棟梁たる西郷、桐野、篠原等之人傑が蹶然冠を掛て故山に帰臥せしや、その余響は惹きて翌七年甲戌二月に於ては裂て以て佐賀之乱となり、同丙子十月に到りては熊本神風連之乱となり、踵て秋月及萩表之乱とはなり、遂に十年丁丑の春に迫りては、我が福岡表乃至西南之一大乱を爆發せしめしこととはな

りしなり。然り而して、その気炎の將に発萌せられんとするの氣運に触れ、天下憂国誠の士は、足を踵て以て対外進取の第一着を啓んことを想ふは、国民として男兒として自らその赤誠に涙り、その精気に奔らんとするも亦偶然にあらざるなり。

茲に明治六年冬征韓之議起り、参議連の辞職より、適宜段落を設けた。本文中の(一)は底本のままである。誤字、脱字その他、石瀧による註記は「」でくくつた。同音の漢字を通用した場合はいちいち註

たり。恰も前参議江藤新平佐賀表に帰り来りて、何か事を発せんとするの挙動行はれしや、殊に其同志の一人たる武部小四郎は単身馳せて佐賀表に赴き、同県大属石井竹之助(貞興)に面接なして謀る所あり。福岡表を根拠として同県と聯絡し、政府へ建議なし、事穩悉に為すことありて、以て江藤旧参議之本旨の在る所を援け、対外宣武その征韓論を復旧せしめん事を誓ひて帰り来る。その準備をおさおさ着手しかりつつありしに、何ぞ凶らん、爾後佐賀表の挙動たるや、端なく出張熊本鎮台兵との間に於て戦端は開かれ、その宿願は全く破裂して奈何ともす可からざるの形勢とは打變ぜしなり。

右の佐賀表の挙動切迫するに随ひ、有志宮川太一郎、箱田六輔等はその発起となりて、旧就義、併心隊の志士を福岡橋口町勝立寺へ集合して、以て我福岡士族が執る可き方針に係り一場の評議會を開く。その檄文に於て来り集る壯士、一夜三百余人に及ぶ。然して其場の景況たるや、人毎に其議論を異にし、更に適從する処を知らざりけり。折柄、三木五六郎、不破豊吉其他年輩者もその場に臨んで百方鎮撫し、決して輕躁に奔らず、飽くまでも自重を旨とし、一先解散す可きを論ず。殊に旧就義隊の志士は、曾て三木がその大隊長よりして、統馭之下に在りたることなりしかば、決て其場を解散し、各家に帰り指図を待つべきの所とはなりしなり。

睡て追討の大号令は渙発せられしと同時に、大久保参議は自ら九州に下り、処治する所あり。兎玉陸軍少佐(源太郎伯なり)福岡表に來りて、旧藩隊士の壯者より募りて臨時鎮撫隊を組織す。依て彼集合の壯士連は率ねその募りに応じて、一夜の内に数隊の義勇兵成りたり。

その隊兵ハ三木五六郎、不破豊吉ヘ大隊長、矢野尋六郎ヘ大隊副官に、舌間慎吾、久光忍太郎、吉田新太郎(駒次郎の実弟)、川越庸太郎、吉田駒次郎、郡利等ヘは相談役に(但し、郡利、吉田駒次郎は戦地に臨まざりしも、本部に在りて事を執れり)、越智彦四郎、箱田六輔、村上彦十、加藤堅武、生(幾)島徳、大島太七郎、宮川太一郎、葉山守、母里崇、江上直直、権藤貫一、阿部武三郎、大庭弘等は小隊長或ハ半隊長に、内務省より命令ありて、三つ瀬水無口、中原口の両道より佐賀表を指して追撃するの所とはなりたり。

(続く)

#### 賛助会員加入のお願い

「玄洋社記念館」は、昭和五十三年十一月に、玄洋社諸先覚関係の所蔵、収集資料を展示、公開する目的で玄洋社跡に開館。昭和五十八年四月一日、社団法人組織となつて現在に至つております。

先憂後樂、道義立国の諸先覚の精神を敬仰し、世を憂うる方々による賛助会員制を採つております。何卒、本館の趣旨に御理解頂き、賛助会員として、御支援を賜りますようお願いいたします。

い申し上げます。賛助会員は、個人年一口一万円。団体・法人年一口三万円(口数は随意です)。(郵便振込)口座番号「福岡7120738」(銀行振込)西日本銀行赤坂門支店 普通預金口座番号「0740047」玄洋社記念館宛

玄洋社記念館御案内  
■開館時間 午前10時より午後5時まで  
■休館日 土、日曜・祝日  
■入館は無料

